



夜な夜な短歌集

2014年 春号

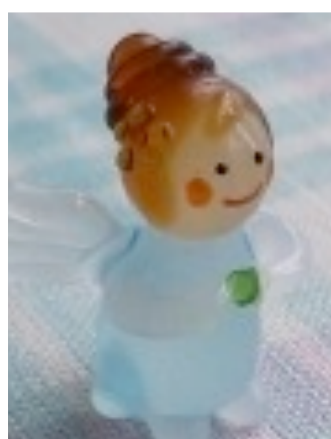
夜な夜な短歌人紹介



momongaさん



華さん



雪さん



せんむさん



Juneさん



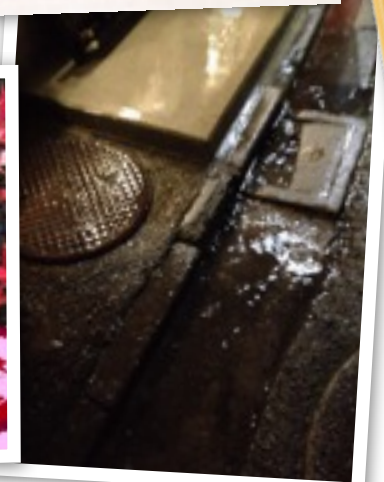
レイさん



masa



短歌って、遠い世界のものだと思ってた。
でも、実はすごく身近なところにあるんだ。
それを知った僕たちが、短歌を紡いでいく。
そんな楽しみをあなたにも感じて欲しいので
す…。



思い込みって怖いですよ。できないとか、無理って思うと、頭が勝手にできないようにしてしまうんですよ。ところが…反対にできる、やりたいって思うようになると、カチッと頭が切り替わるんですよ。ここに集まった短歌人たちは、まだまだ短歌を詠みはじめたばかりのひよっこばかりです。でも…短歌に対する熱量は案外大きいのではないかと思います。今回は春号ということもあり、「春」「恋」「はじまり」「コーヒー」「夜」といった春をイメージするテーマで短歌を詠んでいます。良かったら、みんなの春に触れていってください。

華さんの短歌

春が散る
そんな風すら
ふたりには
つぎの息吹が
訪れている

ヤマアラシ
言わせた距離を
押し引いて
悔いつ妬みつ
ここにいるんだ

お近付き
ぐるぐるN極
追いかけて
日々180℃
…もしや樹海か

華さんの短歌

香りたつ
カフエインのむこう
微笑んで
いたのは幻
脳の誤作動

やみうすれ
おいてきぼりの
ぼくの夜
ともにあるのは
きみの朝

時計ふせ
TVに見入る
フリをして
今日は言わせぬ
終電なんじ？
L

雪さんの短歌

雨上がり冷たい風を吸い込んで
胸いっぱい星の香りよ

親の手を離れつつある子の
背を眺め
桜降るなか入学式へ

ふと見れば街にあふれる花ことば
春風が順に色をつけてく

Juneさんの短歌

足のばし
八重の桜に
朧月
行ったと思つた
春にまた会う

桜色
春の足音
連れてくる
華やぐ気持ち
ほらあちこちに

お彼岸の
空青く澄み
まばゆくて
土手の菜の花
父見てるかな

Juneさんの短歌

恋
い
焦
が
れ

欲
し
か
っ
た
の
は

君
で
な
く

き
ら
き
ら
し
て
た

あ
の
日
の
自
分

す
る
こ
と
も

言
う
こ
と
さ
え
も

そ
れ
で
い
い

素
直
に
思
え
た

あ
な
た
と
の
日
々

忘
れ
か
け

凧
い
だ
月
日
が

夢
の
中

あ
な
た
現
れ

心
波
立
つ

レイさんの短歌

強風で桜の稚児ら舞い上がり
くるくる踊るよ花のロンド

自転車でそよ風切って路地行けば
春の庭先
花の香ビュッフエ

昼下がりに寄った図書館桜の樹
子らの歓声
開花宣言

レイさんの短歌

もう少ししきつく縛って自分ではほどけぬようにほどこかぬように

桜の香 酔ったふりしてあなたを誘う 今宵花びら口に含んで

お茶しよう♪
思いきって誘ったのに 連れていかれた自販機の前

せんむさんの短歌

遠
き
地
の

闘
う
友
を
思
い
つ
つ

風
に
託
さ
む

勝
利
の
種
を

少
し
だ
け

重
い
気
分
と
曇
天
を

打
ち
破
る
よ
な

ホ
ー
ホ
ケ
キ
ヨ

ど
こ
か
ら
か

呼
ば
れ
た
気
が
し
て

足
下
に

ふ
と
目
を
や
る
と

名
も
知
ら
ぬ
花

せんむさんの短歌

春の宵
一人歩きは
ひんやりで
恋しくなるは
君のポケット

四月夜
片手に珈琲
見上げれば
俺にもくれよと
月が囁く

その背なに
大きく広がる翼あり
空に恋する
君よ羽ばたけ

momongaさんの短歌

1
春
な
の
に
L
口
ず
さ
み
な
が
ら
ク
ス
つ
と
す
る
制
服
脱
い
で
も
同
じ
こ
と
し
て
る

散
る
定
め
知
っ
て
い
る
の
か
全
力
で
今
を
と
き
め
く
ピ
ン
ク
の
妖
し
さ

知
ら
ぬ
ふ
り
ラ
ク
だ
っ
た
け
ど
も
う
や
め
る
瞳
の
強
さ
受
け
と
め
て
み
る

momongaさんの短歌

ネクタイを緩めヒールも下りたなら夜の帳が隠してくれる

ブラックで
私も
と笑む二人から香りよ隠して秘めたる想いを

葉指予約済みだと今日知ったキャンセル待ちの作戦開始

masaさんの短歌

沈む
夜に
タタ
ンツ
トト
ンと
眠る
街

銀
河
鉄
道
に
夢
の
せ
駆
ける

やさしく
て

ただ

やさしい
と

言
わ
れ
て
も

愛
の
証
に
は

ほ
ど
遠
く
て

見
上
げ
れ
ば

桜
の
花
び
ら
舞
い
落
ち
る

我
の
想
い

な
す
術
も
な
く

masaさんの短歌

頬染める
乙女の恥じらい
うつくしき
頬に手をあて
ふわり抱きしめて

夜明け前
にじむ涙の
わけ知って
またね
は言わず
最後の接吻

淹れるのは
珈琲一杯
祈る愛
邪念も見栄も
濾して
除いて

短歌人からひとこと



華さん

首謀者masaさんの、あまりに切ない歌をどうにか前向きにしたいくて、つい返歌したのが「春が散る～」でした。6首でなんとなく物語性をもたせたつもりです。歌の解き方は受け手の自由、ちょっとでも共感したり楽しんでもらえたらサイワイです。今回は参加の機会を頂き、ありがとうございました！

雪さん

短歌は読むもので、詠むものではありませんでしたが、読友さんたちの短歌に影響されて詠んでみたが最後、いまではすっかり短歌のおもしろさに夢中になり、五七五七七と指折り数える毎日です。こんなに楽しい世界があったなんて。私を短歌の世界に誘ってくださった読友さんたちに、とても感謝しています。



Juneさん

短歌をつぶやきで目にするたび、その魅力に惹きつけられました。普段なかなか口に出来ない気持ちも、短歌を通してなら共有できるかもしれない。出会ったばかりの方々にお誘いいただき、今回歌集に参加しました。本を愛する人たちは優しくて秩序がある。読メに会えて良かった。

レイさん

短歌歴はごく短いですが。古典の知識も無いまま詠んでいるので、独自の歌になってしまうことも多々。

「これなら私も詠める！」と功を奏したのか、今ではすっかり『夜な夜な短歌』が定着しました。

これからも色んな方に刺激をもらいながら短歌を続けていけたらと思います。



短歌人からひとこと



せんむさん

- 一首目：多分、初めてまともに作った短歌です。
- 二首目：朝の挨拶代わりに歌いました。おはホーホケキョ♪
- 三首目：お気に入りさんが、気まぐれで作った歌への返歌。
- 四首目：一番、反響が大きかった歌
- 五首目：意外な人から反応があった歌
- 六首目：覚えてますか？

全て、受け取り方は読み手様の自由です♪

momongaさん

うんうんうなりながら、でも豊かに言葉を紡ぐきっかけを下さったmasaさん@管理人さんをはじめ、読メの皆様
に感謝します。

日常を詠むことができず、脳内再生ドラマの6首と
なりました。



masa

ある日、突然魅せられてしまった短歌。

それまでは、短歌を読むだけだったのが、詠むに変わってか
ら、毎日短歌漬けの生活がはじまりました。

しかも、ひとりでは満足できず読メのみなさんを巻きこんで
日々楽しいやりとりをしています。みなさんお付き合いあり
がとうございます。これからも夜な夜な短歌しましょうね♪



※ 当歌集に掲載されている文章・画像等の無断転載はご遠慮下さい
使用する際は、事前に確認していただくようお願いします

※ 読書メーター内での歌集の紹介、レビューでの紹介は大歓迎です
短歌人たちも喜びますので是非広めてくださるとうれしいです

編集後記&コミュ紹介



編集後記

この歌集を作るまでは、本当にできるのだろうかと不安に思っていました。ところが、実際にメンバーに声をかけたところ…。みなさん快く引き受けてくださって、あっという間に『夜な夜な短歌集』の第1号を作ることができました。いつも楽しく短歌のやりとりをしているメンバーとだからこそ実現できたことなのではないかと思っています。発起人としては、これから季刊誌として定期発行していきたいと目論んでいます。またお声かけると思いますので、よろしくお願いします。

masa@コミュ管理人

夜な夜な短歌コミュについて

『夜な夜な短歌コミュ』とは、読書メーターにあるコミュニティです。短歌が好き、短歌を詠みたいというメンバーが集まって日々交流をしています。みなさんも良かったら一緒に短歌を作ってみませんか？興味ある方は、リンクよりたどってみてくださいね。

[☆夜な夜な短歌コミュをみる](#)

[☆読書メーターをみる](#)

